令和7年度

広島県立三次看護専門学校

第一看護学科

一般入学試験

コミュニケーション英語 I コミュニケーション英語 **I**

受験番号() 氏名()

答案作成上の注意

- 1 受験番号と氏名は、解答用紙の所定の欄に必ず記入すること。
- 2 解答は解答用紙の所定の場所に記入すること。
- 3 配布した問題用紙、解答用紙は持ち出してはならない。

第一問 次の $(1) \sim (10)$ に最適なものをア~エから1つ選び記号を書きなさい。) of patients is our top priority. √ safely ウ save 工 safety ア safe (2) I thanked my friends for being () in our plan. ア help √ helpless ウ helped エ helpful (3) The head nurse has () asked her staff to complete the form. ア to repeat ✓ repeated ウ repeatedly エ repeating (4) The hospital () its doors to the public in two weeks. ア opening イ will open ウ opened 工 has opened (5) The event attracted more patients than () expected. イ our ア us ウ ourselves 工 we (6) () the growing popularity of online learning, some teachers are unsure of its effects.

ウ In case that

ウ selective

) of dishes to choose from.

エ While

工 selectively

✓ Because of

✓ selection

ア Despite

ア select

(7) Our school cafeteria has a wide (

(8)	The dishes are () excellent.		
	7 surprised	√ surprising	ウ surprise	
(9)	When firefighters	are (), they a	re ready to help peo	ple in an emergency.
	7 by chance	√ on average	ウ on duty	工 in common
(10)	My friend () o	n me at my home.		
	7 dropped in	√ stepped up	ウ had an effect	工 kept an eye
第二	に英文で埋めな		語以内とし、2文以	tび (B) の()を自由 上に分けてもかまいませ
(A)	Ann and you are	e friends.		
A	nn: I'm going to Ja	apan next month.		
Y	ou: Good idea!			
A	nn: Tell me about	your favorite spots	s and food.	
Y	ou: Well, ()
(B)	Tom and Ken ar	re classmates.		
Т	om: Yesterday, I c	aught a cold.		
Ke	en: Too bad!			
Т	om: How can I rec	over quickly?		
K	en: ()

第三問 次の文章を読んで、質問に答えなさい。

Long ago, there was a girl named Tender Flower. She lived in a village next to a big forest. Every day she walked with her dog, Tic, into the forest.

"I know this forest so well," she said. "I can walk through it with my eyes closed."

In the winter, snow fell over Tender Flower's village. Snow covered the forest trails, but Tender Flower still walked in the forest every day.

One morning, Tender Flower heard the sounds of coughs and sneezes coming from inside the village homes.

Tender Flower's father looked worried.

"Many of our people are sick," he said. "They have fevers with headaches and stomachaches. This is a very bad sickness."

Soon, everyone in the village was sick, even Tender Flower's family. Only Tender Flower remained healthy.

Tender Flower's father called to her from his bed.

"We need medicine," he said. "Go to the village on the other side of the forest. Ask the people of the village for help. I can not go myself. I am too sick."

Tender Flower called to Tic, and they ran into the forest together.

They ran through the snow like forest animals. They ran so hard and fast, they didn't even feel cold. Although she was very tired, Tender Flower told herself to keep running.

Soon, Tender Flower arrived at the other village. She told the chief about the sickness in her village.

"Take this medicine," said the chief. "It will help your people. If they are weak, give it to them yourself."

"Thank you, great chief," said Tender Flower.

Tender Flower put the medicine bag around her neck. She did not stop to eat or to drink. She and Tic ran back into the forest toward her village. They ran even faster than before.

Now, the snow fell harder. It was night. A strong wind blew into Tender Flower's face. The cold made her feet ache. Soon, she was dizzy from running.

Tender Flower didn't think about herself. She thought only about the sick people in her village.

When Tender Flower was near her village, she fell. Her slippers got stuck in the deep snow and came off her feet. Still she kept running. Her feet were covered with cuts, but she kept going.

Finally, she reached home and gave the medicine to the sick people in her village.

Soon, the medicine made everyone better.

In the spring, Tender Flower went to the place where she lost her slippers. The slippers were not there. Instead, in their place, there were beautiful flowers.

The people now call these flowers "Lady's Slippers." The flowers remind everyone of the brave girl, Tender Flower, and of how she saved her people.

(Adapted from Tender Flower and the Medicine by Adam Coleman)

- (1) What did Tender Flower say about the forest?
 - 7 "I know this forest so well. I can walk through it with my eyes closed."
 - イ "I am afraid of this forest and don't like walking in it."
 - ウ "I know this forest better than anyone else."
- (2) What sickness did the people in the village have?
 - **7** They were tired from working too hard.
 - 1 They had sore throats and coughs but no fever.
 - ウ They had fevers, headaches, and stomachaches.

	✓ Medicine to help the sick people.
	ウ A map to help her find her way back.
(4)	What happened to Tender Flower's slippers in the snow?
	7 They got stuck in the deep snow and came off her feet.
	✓ She lost them in the river while crossing it.
	ウ Her dog, Tic, accidentally took them.
(5)	Why do people call the flowers "Lady's Slippers?"
	7 Because Tender Flower lost her slippers there.
	← Because the flowers looked like real slippers.
	ウ To remember Tender Flower's bravery when she saved her village.

What did the chief give to Tender Flower?

ア A bag of gold to buy food.

side of the forest.

the sick people if they were too weak.

Tender Flower ate and drank before running back to her village with the medicine.

(6) $1\sim5$ の文のうち、正しいものには T を、誤っているものには F を書きなさい。

Tender Flower walked into the forest with her dog, Tic, every day.

Tender Flower's father asked her to get medicine from a nearby village on the same

The chief of the other village gave Tender Flower medicine and told her to give it to

- 5 In the spring, Tender Flower found her slippers where she had lost them.
- (7) Tender Flower の行動から、あなたはどのような教訓やメッセージを受け取りましたか。また、それをあなた自身の生活や将来にどのように活かせると思いますか。自由に英文で書きなさい。語数は 40 語以内とし、2 文以上に分けてもかまいません。なお、コンマやピリオドは語数に含めません。

令和 7 年 度

広島県立三次看護専門学校 第一看護学科 一般入学試験

数学 I·数学A

答案作成上の注意

- 1 受験番号と氏名は、所定の欄に必ず記入すること。
- 2 解答は所定の場所に記入すること。また、解答のための計算式も 必ず記入すること。
- 3 配布した問題用紙、解答用紙は持ち出してはならない。

令和7年度 第一看護学科 一般入学試験問題 数学 I·数学 A

受験番号() 氏名()

(注) 解答はこの用紙に記入すること。また、解答のための計算式も必ず記入すること。

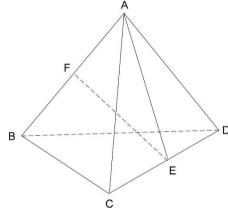
- ① 放物線 $y = \frac{1}{2} x^2 2x + b$ がある (bは定数)。
- (1) 定数 b を用いて、この放物線の頂点の座標を求めなさい。
- (2) $1 \le x \le 4$ の範囲で最小値が4だったとき、bの値を求めなさい。
- (3) (2) の範囲における y の最大値を求めなさい。

2

- (1) 最大公約数が 6, 最小公倍数が 252 となる 2 つの自然数 a, b (a>b) の組をすべて求めなさい。
- (2) 2 つの分数 $\frac{45}{8}$, $\frac{35}{18}$ のどちらにかけてもその積が自然数となるような分数のうち最小のものを求めなさい。

③ 一辺の長さが a である正四面体 ABCD がある。辺 CD の中点, 辺 AB の中点をそれぞれ E, F としたとき、次の大きさを a を用いて表しなさい。 ▲

- (1) 線分 AE の長さ
- (2) 線分 EF の長さ
- (3) ⊿ABE の面積



- 4 1, 2, 3,,,,9 と書かれた 9枚のカードがある。この中から2枚のカードを取り出す。
- (1) 2つの数字の和が2の倍数となる場合は何通りあるか、求めなさい。
- (2) 2つの数字の和が3の倍数となる場合は何通りあるか、求めなさい。
- (3) 2つの数字の和が2の倍数もしくは3の倍数となる確率を求めなさい。

令和7年度

広島県立三次看護専門学校

第一看護学科

一般入学試験

国語総合

受験番号() 氏名(

答案作成上の注意

)

- 1 受験番号と氏名は、解答用紙の所定の欄に必ず記入すること。
- 2 解答は解答用紙の所定の場所に記入すること。
- 3 配布した問題用紙、解答用紙は持ち出してはならない。

えるようになった。

住空間をきれいに するに は、 できるだけ空間から物をなくすことが肝要ではないだろうか。 ものを所有することが豊かであると、 僕ら は つの 間に カゝ 考

か、 ーションを育む温床であると、① どのものに囲 ものを率先して所有することで、 度成長の頃の三 まれていることではない。 種 の神器は、 日本人はその歴史を通して、 テレ 豊かさや充足感を噛み締めるようになってい ビ、 むしろ、 冷蔵庫、 ものを最小限に始末した方が快適なのである。 洗濯機、 その次は、 達観したはずである 自動車とル たのかもしれない。 ームクーラーとカラーテレビ。 何もないという簡潔さこそ、 しかし、 考えてみると、 戦後のキガ状態を経た日 高い精神性や豊かなイマジネ 快適さとは、 一本人は、 溢 れ かえるほ 1 つし

どんなに立派でも蔵や納戸に収納し、 てられない。 慈照寺の 同仁斎にしても、 洗練を経た居住空間は、 桂☆ の離宮にしても、 簡素にしつらえられ、 実際に使う時だけ取り出してくる。 空っぽだから清々しいのであって、ごちゃごちゃと雑貨やら用度品やらで溢 実際にこの空間に居る時も、 それが、 日本的な暮らしの作法であったはずだ。 ものを少なくすっきりと用いていたはずである。 れているとしたなら、 用 0 な ŧ 目も当

は花を活けることもできよう。 かと想像される。 かしながら、 かし冷静に判断するなら、 率先して所有 今の日本の人々の住宅は、 両の手がビスケットでいつもフサがれていては、そういうわけにもい へと突き進んだ結果である。 両方の手に何も持っていない 仮に天井をはがして俯瞰するならば、 カュ . 方が、 つて腹ペこに泣かされた欲深ウサギは両方の手にビ 生きていく上では便利である。 どこの世帯もおおむねおびただしい かない 両手が自 由 なら、 スケットを持ってい もので溢 それを振って挨拶もできるし、 れかえって ないと不安なの いるのでは 時に であ な

してい 道具に囲まれて暮らしはじめたかと、 すべての家財道具を家の前に持ち出して並べ、 で道を間違えてしまったことを暗示しているようであった。 で細かく取り揃えたものだとあきれる。 ピ | け れども メンツェルという写真家の作品に 鮮明に覚えているのは、② 唖然とした気持ちでそれを眺めた。 別の言い方をするならば、 家を背景にして写真に収まっている。 日本人の家財道具が 『地球家族』と題された写真集がある。 ŧ のの 群を抜いて多かったことである。 生産と消費の不毛な結末を静かに指摘しているようなその写真は、 無駄と言い切ることはできないまでも、 どのくらいの国や文化、 これは多様な文化圏の家族を撮影したもの 日本人は 家族の写真が収められて なくてもよいものたちを、 い 0 たい *(*) 0 0) だ。 間にこんなにたくさんの それぞれ たかは 僕らがどこか よくぞここま 正 \mathcal{O} 一確に記 家族

端 緒 にd ものにはそのひとつひとつに生産の過程があり、 しサカ ノボ って、 ŧ 0 は計 画され、 修正され、 実施されて世にかたちをなしてくる。 7] ケティングのプロ セスがある。 石 さらに広告やプロ 油や鉄鉱石のような資源 モ] ショ のサイクツに始まる遠大なも。 ン が 2流通の 後押しを受けて、 それら くり は

であるとしたらどうだろうか。 人々の 暮らし のそ れぞれの場所にたどり着く。 資源も、 創造も、 そこにどれ 輸送も、 電 ほ どの 波 Ŕ 工 チラシ ネ ル ギ ŧ が コ 消 費されることだろう。 7 1 シ ヤ ルも、 それらの大半が、 その大半が、 暮らしに濁りを与えるだけ なくても 1 V ような、 雑ざっ 0 駁は 結果 た物 L カコ 品

たらしてい

ないとするならば、

これほど虚し

いことはない。

て頭の たの かに頼も 僕ら かもし 中に装着してしまった結果か、 は れ い ない。 勢いに見えるだろう。 カ 秋葉原にしてもブランド ŧ 0 で 溢 れる日本という だから、 あるい は 1 ショップにしても、 Ł 0 戦 0 0 間にか日本人はものを過剰に買い込み、 後 を 0) 物 度 資 を 超 Ø e トボ えて 過 許 剰なる製品供給の情景 しい時代に経験したもの 容 L 7 L ま 0 た カ ŧ は、 L れない。 その異常なる量に鈍感になってしまっ の渇望がどこかで幸福 ŧ 0 \sim 0 世 切実な渇望をひとたび経験し 界第二 位 であ 0 を測る感覚の た G D Ρ を、 目 た目 目に 盛 ŋ 見えな を狂 で見るならば、 わせてし 誇りとし ま 確

たい いく と実行に移されることではな t ない」 0 たい さもなければそれを購入する時に考えた方が ない」 はやや鈍感に過ぎるかもし そろそろ僕らはものを捨てなくて と感じる心持ちにはもちろん共感できる。 か。 れ ない は 廃棄する時では V け な い \ \ \ 捨てることのみを「もったい もったいないのは、 L 遅い かし膨大な無駄を排出した結果の、 のだ。 もしそういう心情を働 捨てることではなく、 ない」 と考えてはい か せるなら、 廃棄の 廃棄を運命づけられた不毛なる生産が意図され、 局 けない。 面 でのみ機能させるの まずは何 捨てられるもの かを大量に生産する時に感じた方 だとしたら、 0 風き 情。 に感 その 情 移 入して もっ 次

は決して れても \mathcal{O} は、 В 企 快適で 業の が、 大量生産という状況につ 工 ゴ はな そ イスティ れ 1 は世界を心地よくしていくことが し心地よくもな ックな成長意欲だけ ١ ر て もう少 で L は 批評 な 前提であ 的になっ 所 有の果てを想像できない ŋ, た 方が 人はそのためにものを欲するの V \ \ \ 無闇に生産 消費者のイ 量 を誇 いっては マジネー が自然であ V け シ な 彐 ĺ١ ン る。 0) · の 脆セッ だ。 さして必要でもない 弱 大量 さもそれに加担 生産 大量 消 ŧ 費 L \mathcal{O} て を を V 加 る。 溜た 速させてきた 8 込 とむこと 0 は 売

らであ を楽し 漆喰の が 開い 良質な旅 てい む 風 情にそそられる。 肌 館に泊まると、 \mathcal{O} L 繊 のである。 つら 細 さが呼び いや調 度の ホテルにしても同様。 起こされてくるの 床に活けら 感受性の感度が数ランク上 基本 は ものを少なくすることであ れた花や花器に目が で 簡潔に あ 一がったように感じる。 極 ま つ 向 き、 た る。 環 料 境であるからこそ一 理 何 が Ł .盛りつけら な 1 それは 簡素な空間に 空間 れ 枚の た器の美しさを堪能できる。 タオル の気配りが行き届 あ ってこそ、 0) 素材に気を通わせることができ、 タ ノタミ 1 (T) て 目 いるために安心して身も そして庭に満ちて 0 織 りなす 面の 美 バ V しさに る自 ス 口 心 も解 目 然に素直に ブ が 0 向 放できる 柔ら 意識 壁 カコ さ $\overline{\mathcal{O}}$

ただし は V 物 品 般 \mathcal{O} \mathcal{O} ほ 住 とんどを取り ま いにも当てはまる。 除 V) てみ 現 在 れば 1 \mathcal{O} 住まい 1 °(5) おそらくは予想外に美し にあるも 0 を最 小限に絞 ٧V ・空間 0 て、 が出現するはずだ 不要なものを処分し き れ ば 住 空間 は 確 実に快適になる。 試 しに お び

す。 ニングではその風情を味わうことは難しい。 らゆる道具には 逆に、 、駄なものを捨てて暮らしを簡潔にするということは、 漆器 が艶やかな漆黒をたたえて、 相応の美しさがある。 シモの付 陰影を礼讃する準備ができていたとしても、 いたグラスを優雅な紙敷の上にぴしりと置ける片付いたテーブルがひとつあれば、 家具や調度、 生活用具を味わうための背景をつくるということである。 リモコンが散乱してい たり、 ŧ 0 が溢れかえって グラスは途端に魅力を増 芸術作品でなくとも、 いたりするダ あ

だけで、 ョンにつながるという考えは、 開放感こそ、 この国に生まれてよかったと思う刹那がある。 白 1木の 暮らし カウンターに敷かれた一 心地よさにつながるのだという考え方も当然あるだろう。 の喜びは必ず生まれてくる。 ある種のダラクをはらんではい 枚の白 い紙や、 そこに人は充足を実感してきたはずである。 そんな高踏な緊張など日 漆の 盆の上にことりと置かれた青磁の まい か。 家は休息の場でもあるのだ。 ものを用いる時に、 々の暮らしに持ち込みたくはないと言われるかも 小鉢、 そこに潜在する美を発揮させられる空間や背景が 塗り椀の蓋を開 しかし、 だらしなさへの無制限 けた瞬間に香りたつ出 しれ ない。 の許容がリラクゼー 緊張では し汁 のに わずかにある なくゆるみや お に あ あ

素晴らし を生み出すかではなく、 案とかである。 C ر ر な工芸品を活性化するために、 漆器を見 自分もそんな活動に加わったこともある。 れば それらを魅力的に味わう暮らし 人々は感動する。 様々な試みが講じられている。 L かし、⑥ それを味わい をい そういう時に痛切に思うのは、 かに再興できるかである。 楽しむ暮らしの余白がどんどんと失われているのである。 たとえば、 現在の生活様式にあったデザインの導入であるとか、 漆器が売れない 漆器にしても陶磁器にしても、 のは漆器の人気が失わ 問題の本質は れたためで V かに魅っ 新 は な L 11 力的 用 今日でも 11 なも 方 0) 提

Ł のは成就し \mathcal{O} 伝統工芸品に限らず、 はかたちを変える。 ない Ļ ŧ のに託された暮らしの豊かさも成就し 「家」 現代のプロダクツも同様である。 も同様である。 ゴウカさや所有の多寡ではなく、 ない。 だから僕たちは今、 未来に向けて住まい 利用の深度が大事 0 なのだ。 かたちを変えていかなくてはならない よりよく使い込む場所がな <u>ک</u> 育 0

してい もの る国の を捨てるのはその ない。 人 か 6 ダッピ 歩である。 して、 簡潔さを背景にもの 「もったいない」をより前向きに発展させる意味で「捨てる」のである。 0 素敵さを日常空間の中で開花させることのできる繊細な感受性をたずさえた国 どうでも い Ņ 家財道具を世 \mathcal{O} 人に立ち返らなく たくさん所有

持 よりもなくすこと。 そこに住ま V 0) かたちを作り 直して いくヒントが あ る。 何 もないテーブル 0) 上に箸置きを配する。 そこに箸が U りと決まっ

暮らしはすでに豊かなのである

てはい

け

原 研ん 哉ゃ 『日本の デザイン 美意識がつくる未来』による。 出題の都合 上 部改変した)

注 慈照寺の同仁斎…現存する最古の書院造りの建築物。

桂の離宮…著名な日本庭園を有する皇室関連施設。

俯瞰…高い所から下を見おろすこと

ピーター・メンツェル…アメリカの写真家

雑駁…知識・思想が雑然としていて、統一がないこと。

プロダクツ…消費者に提供される製品や商品。

問一 傍線部 a ~ j のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 傍線部① 「日本人はその歴史を通して、達観したはずである」とあるが、「その歴史」において日本人はどのように暮らしていたと筆者は述べている

か。本文中の言葉を用いて百字以内で説明しなさい(句読点なども一字に数える)。

問三 傍線部② 「日本人の家財道具が、 群を抜いて多かったこと」とあるが、 筆者はそれがどのようなことを意味していると感じたのか。 それを示した箇

所を、本文中から二十字以内で書き抜いて答えなさい。

問四 傍線部③ 「僕らはいつしか、 もので溢れる日本というものを、 度を超えて許容してしまったかもしれない」とあるが、 その結果はどうであったとい

j Ó か。 それを示した一文の最初の五字を答えなさい (句読点なども一字に数える)。

問五 空欄 В に最もふさわしい語を、 次の①~⑥の中から選び、 番号で答えなさい。

① つまり

② しかし

③ すると

⑤

だから

4

ただし

⑥ いわば

問六 傍線部④ 「捨てることのみを「もったいない」と考えてはいけない」とあるが、 それは筆者が 「もったいない」 のはどのようなことだと考えている

からか。五十字程度で説明しなさい。

問七 拠を示した箇所を本文中から十字で書き抜いて答えなさい。 傍線部⑤「おそらくは予想外に美しい空間が出現するはずだ」とあるが、 なぜ物品を取り除くことで「美しい空間が出現するはず」なのか。 その根

問八 空欄 С に最もふさわしい語を、 次の①~④の中から選び、 番号で答えなさい。

現代的

問九

傍線部⑥

「それを味わい楽しむ暮らしの余白」とは何か。

「余白」

の意味が明らかになるよう、

本文中の言葉を用いて説明しなさい。

② 一般的

③ 個性的

④ 伝統的

問十 傍線部⑦ 「暮らしはすでに豊かなのである」とあるが、看護の現場において、「豊か」であるためには何が大切であると考えるか。 あなた自身の看護

や介助、介護、 入院等の経験や知識に基づいた具体例を示しながら、二百字程度であなたの考えを述べなさい(句読点なども一字と数える)。

5